

## ■ 校長式辞

本日ここに、三宅小学校開校150周年記念式典を挙げるにあたり、稲沢市長 加藤 錠司郎（じょうじろう）様をはじめ、多数のご来賓や保護者の皆様方のご臨席を賜り、児童・職員一同心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。また、開校150周年記念事業実行委員会の皆様には、本日の式典開催に向け、並々ならぬご支援を賜りました。この場を借りて、御礼申し上げます。この開校150周年という大きな節目の年に、三宅小学校で勤務することができたことを誇りに思います。

「氏神屯倉いただきて 三宅の川のうるおおす」この地に、「三宅村義鬘（みやけむらぎこう）」として、三宅小学校が誕生したのは、明治5年5月のことです。以来150年の歳月が経過しています。学校創建以来、教育の理想を求め、多くの方々の学校に対する熱い思いに支えられて歩んできました。また、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成を目指して、様々な特色ある教育実践が行われてきました。その結果、歴史にも名を残すような偉人を輩出するなど、有能な人材を育ててきました。

しかし、私たちは、新型コロナウイルス感染症という脅威の出現により、「予測が困難な時代」を迎えることになりました。最初に日本で感染の報告があったから2年以上の間、私たちは、直面する様々な脅威やそれに伴う変化を柔軟に受け止め、今できることを最大限に行いながら、日々の歩みを進めてきました。

「予測が困難な時代」を乗り越えるために必要なことは、私たち一人一人が主体的な社会の担い手として問題に向き合い、柔軟に受け止め、大人も子どもも関係なく、一人一人ができることに全力で取り組むことが必要であるといわれています。この150年間を通して培われてきた特色ある三宅小の教育活動は、変化の激しい、これからの社会を担う子どもたちに必要な力となると信じています。

今こうして、本校の子どもたちが日々の活動を進めていられるのも、これまでの150年間、今と同じように、本校に関わる多くの方々が熱い思いをもち、子どもたちのために日々考え、温かい目で見守り、手を携えながら、本気で取組を進めてこられた成果であると強く感じています。

この開校150周年を機に、これまでの伝統ある三宅小学校の歴史を振り返り、地域・家庭・学校ががっちりと手を取り合って、「まことの心を心とし 理想の学び舎」を「打ち立て」ていきましょう。

最後になりましたが、ご来賓並びに、地域・保護者の皆様、関係者の皆様には、これまでと変わらぬ愛情と温かさをもって、共に歩んでくださるよう、今後とも私たちへの一層のご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。私の式辞とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

令和4年11月19日

稲沢市立三宅小学校長 浅野 弘一